

中京学院大学紀要執筆要領

I. 表記法

1. 原稿は和文または欧文とし、A4縦置きで横書きとする。本文はMicrosoft社のWordを使用し、図はWord・Excel・PowerPointのいずれか、表はWord・Excelのいずれかで作成する。ExcelまたはPowerPoint以外のソフトで作表した図表は、JPEGまたはPDF形式で保存する。
2. 本文の文字の大きさは11ポイントのMS明朝体とし、20字×36行の二段組みに書式設定する。表紙を除く全ての原稿で16,000字（約10頁）以内とする。なお、図表はA4版の1/4大で450字程度に換算するものとする。
3. 本文には必ずページ数を中央下に挿入する。
4. 文章は簡潔でわかりやすく記述する。文体は「である調」を基本とする。
5. 読点は「，（全角コンマ）」とし、句点は「。（全角ピリオド）」とする。
6. 漢字の使用については、原則的に「常用漢字表」に則るものとする。なお、専門用語に類するものについてはその限りではない。
7. 数字および欧文については、原則として半角文字を使用する。ただし、本文中の1桁の数字および1文字のみの欧文（例：A施設、B氏など）の場合は全角文字とする。
8. 略号および略字は初めてそれが出る箇所で正式の名称に続けて（ ）内に記載しておく。ただし慣用句でない略号は原則として用いない。
9. 量記号（サンプル数の n や確率の p などの数値すなわち量を表す記号）に対しては、欧文書体のイタリック体（斜体）を使用する。
10. 整数部分が0で理論的に1を超えることのない数値は、「.15」のように小数点以下だけを表現し、縦に揃える場合は小数点の位置で揃える。
11. 分数の表記は、「4分の1」あるいは「1/4」のようにする。「1/4」の場合のスラッシュは、半角を用いる。

II. 表紙

1. 和文題目が30文字以上の場合は、2行にする。
2. 和文氏名が連名の場合は、「・」で結ぶ。
3. 欧文題目については、
 - (1) 表題の文頭および次に示す品詞の語頭は、大文字にする。
語頭を大文字にする品詞：名詞、代名詞（**Her, Him,** など）
形容詞、動詞（助動詞を含む）、副詞、感嘆詞
 - (2) 次の品詞の語頭は、小文字にする。
語頭を小文字にする品詞：冠詞（**a, an, the**）、前置詞（**at, in, to** 等）、
接続詞（**and, after** 等）

4. ローマ字氏名が連名の場合には、各氏名を「,」で結ぶ。フォントは、「Times New Roman」の bold 体を用いる。
5. 共著者に学外者が含まれる場合には、氏名（和文およびローマ字の両方）の右肩に番号を付し、下部に番号に続けてその所属を示す。学外者が複数でかつ所属が異なる場合には、番号の数を増やして明示する。
 (例) ¹⁾ ○○大学 文学部 心理学科, ²⁾ △△市役所 保健師 等
6. 要旨を和文400字以内で記載する。
7. 要旨の下に、キーワードを5語以内で付す。
 (例) アンケート調査, 看護診断, アミノ酸, 男女比較, ユネスコ

Ⅲ. 見出し

1. 見出しは、原則として次のように書く。
 - (1) 見出しは「MS ゴシック」を用い、外国語・数字には「Times New Roman」の bold 体を用いる。
 - (2) 見出しのレベルは第1レベルから第7レベルまでとする。
 - (3) 第1レベルは論文タイトルで、見出しに数字やアルファベットを付けない。論文タイトルは印刷時には中央揃えになる。
 - (4) 本文の見出しは、以下に示す第2レベルから第7レベルまでの6のレベルから構成する。見出しに付ける数字・記号、およびピリオドは全角を使用する。
 第2レベル：Ⅰ. Ⅱ. Ⅲ. ……………：中央揃え
 第3レベル：A. B. C. ……………：左端揃え
 第4レベル：1. 2. 3. ……………：左端揃え
 第5レベル：a. b. c. ……………：見出しのみ、本文左端より1字下げる
 第6レベル：(1) (2) (3) ……………：上位の見出しより1字下げる
 第7レベル：(a) (b) (c) ……………：上位の見出しより1字下げる
 - (5) 「謝辞」を使用する場合は第2レベルではあるが、本文中では見出し数字・記号は使用せず、単に中央揃えとする。
 - (6) 論文中で使用する見出しのレベルが3レベルまでの場合は数字記号、すなわち第2レベルと第4レベルと第6レベルを使用する。
 - (7) 4レベル以上になる場合は上位から順に使用する。
 - (8) あるレベルに下位レベルをつくる場合、下位レベルの項目は必ず2つ以上の項目をつくる。項目が1つしかない場合には、下位レベルの項目とはしない。

Ⅳ. 図（写真）および表等

1. 図表の挿入箇所は、本文原稿の余白に赤色で指定する。
2. 図表は一枚に一つずつ書き、本文に添付する。用紙のサイズは原則としてA4版とする。各図表をのせた紙には、余白のところにそれぞれ鉛筆書きで投稿者名を記入する。

3. 図表は執筆者の指示のない限り原稿をそのまま印刷するので、鮮明なものを用意する。
4. 図表には、図1、図2のように通し番号をつける。続けてスペースを一文字分挿入した後タイトルを、図の場合は最下段左端に、表の場合は最上段左端に付ける。ただし、図や表がひとつの場合には通し番号はいらぬ。図表タイトルの活字の字体の大きさは、なるべく本文と同じとするが、注、出典、説明文等の字の大きさについては変更が可能なので、必要な場合には投稿者が指示をする。
5. 表の罫線はなるべく省略する。罫線の種類（太線・細線・点線等）は投稿者が指示をする。

－例－

項目
.....
.....
.....

注：項目ごとに、・・・に基づいて集計した。

6. 刷り上がりの寸法は図幅の最大が、6.3cmもしくは13.5cmとなるので、それを想定して各図の余白に、縮尺もしくは横の長さの仕上がり寸法を指定することができる。
(例) 縮尺1/2 もしくは横6.0cm仕上げ
7. 図表の説明文は、本文を見なくても大要が把握できる程度に簡潔に記載する。
8. 写真は図として掲載する。
9. 資料もできるだけ図または表として、出典を明記する。出典の説明は本文中で行うか、図表の下に示すか、図表のタイトルに肩文字で番号をつけて文献欄で行う。また、他の著者物から図表を引用する場合には、必要に応じて原著作者または著書作者または著作権所有者から使用許可を得ておく。
10. アンケート調査に基づいた研究は、原則としてその調査票を論文末に添付する。

V. 引用

1. 論文の中で、自己の主張に関連づけて他の著作者の文章や図表の一部を使用する場合は、出所を明示すれば著作権保有者の許諾を得ることなく「引用」することができる。
2. 本文中の引用箇所には、著者の姓と西暦文献発行年を付けて表示する。

－例－

- (1) 鈴木 (2013) によると「……は……である」。
- (2) 「……は……である」と鈴木は述べている (2013)。
- (3) 鈴木は、……は……である、と主張している (2013)。
- (4) ……であることが明らかにされている (鈴木, 2013)。

3. 2名の著者による単独の文献の場合、その文献が本文に出現するたびに常に両方の著者名を表記する。

－例－

- (1) 鈴木と田中（2013）によると「……は……である」。
- (2) 「……は……である」と鈴木と田中は述べている（2013）。
- (3) 鈴木と田中は、……は、……である、と主張している（2013）。
- (4) ……であることが明らかにされている（鈴木・田中，2013）。

4. 著者が3名以上の場合、文献が初出の時点で筆頭者から3名まで挙げ、第3著者名の後ろに「他」と表記する。それ以降の引用では、最初の著者の後ろに「他」（欧文の場合はetal.）を付ける。例外として、最初の著者1名では論文の区別がつかない場合、区別がつくまで著者名を列記する。

－例－

……であることが明らかにされている（鈴木・田中・伊藤他，2013）。

5. 複数文献を引用した場合には、（鈴木，2013；田中・伊藤，2012）というように筆頭著者のアルファベット順に表示する。

6. 同一著者による、同じ年に発行された異なる文献を引用した場合は、発行年にアルファベットを付し、これらの文献を区別する。

－例－

鈴木（2013a）によると…である。また、別の研究では…であることが明らかにされている（鈴木，2013b）。

7. 同一文献の異なるページを引用した場合には、発行年の後ろにページ数を書き添えて引用箇所を明確にする。

－例－

鈴木（2013）によると…である（p.10）。さらに、…であることも明らかにされている（鈴木，2013，p.115）。

8. 翻訳本を引用した場合には、原作出版年／翻訳本出版年を表示する。

－例－

Ross & Lewin（2007/2010）によると……

VI. 引用文献の記載方法

本文の最後には、【文献】として、引用した文献の書誌情報を、著者名のアルファベット順の一覧表として表示する。

1. 和文名と欧文名は同一基準で取り扱い、和文名をヘボン式ローマ字で記載したものとの比較で順序を定める。文献著者名は原著にあがっている全員をあげる。
2. 稿末文献リストは、和文原稿の場合にはローマ字および数字は半角文字を使用し、半角文字に挟まれる「-」や「（ ）」「 』」は半角記号とする。「，」「。」は全角とする。欧文原稿の場合はすべて半角文字を使用し、雑誌名および書籍名をイタリック体で表示する

(注意：和文の場合は斜字体にしない)。

3. 雑誌名は原則として省略しない。誌面の都合等で省略しなければならない場合は、邦文誌では医学中央雑誌，欧文誌では，INDEX MEDICUS および INTERNATIONAL NURSING INDEX の雑誌略名に従う。

(1) 雑誌の場合：

必要な書誌情報とその順序：著者名（西暦発行年）．表題．雑誌名，巻（号），開始ページ－終了ページ．

※ただし、「巻」の通しページの場合は「(号)」の表示は必要ない（以下の例(2)）。

－例－

瑞浪花子，土岐太郎（2010）．ハイリスク状態にある小児入院患者の特徴．日本看護研究学会雑誌，2(3)，2－12．

Mizunami, H., Toki, T. (2010). Characteristics of inpatients children at high risk, *Journal of Nursing*, 2(3), 2-12.

(2) 書籍の場合：

必要な書誌情報とその順序：著者名（西暦発行年）．書籍名．引用箇所の開始ページ－終了ページ，出版社名．

－例－

瑞浪花子（1995）．看護基礎入門．20－50，中京出版．

Mizunami, H. (2000). *Introduction to Nursing Basic*. 20-50, Chukyo Press.

(3) 翻訳書の場合：

必要な書誌情報とその順序：原著者名（原著発行年）／訳者名（翻訳書発行年）．翻訳書名（版数）．引用箇所の開始ページ－終了ページ数，出版社名．

－例－

Rose, C. & Lewin, K. (2005) / 瑞浪花子・土岐太郎訳（2008）．看護とは．77－79，中京出版．

(4) 分担執筆の文献で著者と書籍に編者（監修者）が存在する場合：

必要な書誌情報とその順序：著者名（西暦発行年）．表題，編集者名（編）：書籍名，引用箇所の開始ページ－終了ページ，出版社名．

－例－

土岐太郎（2009）．学習の効果．瑞浪花子（編）：基礎看護学．12-34，中京出版．

Toki, T. (2008). Effect as a Learning. In: *Fundamental Nursing*, 12 - 34, Chukyo Press.

(5) 電子文献の場合：

必要な書誌情報とその順序：著者（入手年月日）．タイトル，URL．

－例－

中京看護学会（2013-4-23）．中京看護学会投稿マニュアル，
<http://www.chukyo.org/journal/manual.html>

中京学院大学紀要投稿規程

1. 目的

中京学院大学紀要（以下紀要と示す）の投稿に関する必要事項を定める。

2. 投稿者の資格

投稿者の資格は本学に在籍する専任教員（助手も含む）、専任教員を含む共同研究者（他大学等を含む）、その他本学紀要編集委員会が投稿を依頼した者とする。

3. 原稿の種類と内容

原稿の種類は、総説、原著論文、短報、技術・実践報告、資料・その他であり、著者はそのいずれかを明記する。それぞれの内容は以下の通りである。

【総説】ある主題に関し、内外の知見を多面的に集め、概観または文献をレビューし、総合的に概説したもの。

【原著論文】独創性に富み、新しい知見が論理的に示されており、学術的意義が明らかであるもの。

【短報】原著論文には及ばないが、資料的な価値が高く、研究結果の意義が大きく、学術の発展に寄与すると認められるもの。

【技術・実践報告】技術的な課題等についての実践報告で、その手段あるいは得られた成果に意義があるもの。

【資料・その他】上記のいずれにも相当しないが、ある主題の研究に関する見解等をまとめたもので、公表する価値のあるもの。

4. 倫理的配慮

- 1) 投稿する論文の元になった研究は、人および動物、ヒトゲノム・遺伝子が対象である研究や報告は「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針（文部科学省）」¹⁾、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」³⁾または3Rsの原則²⁾にそって倫理的に配慮され、その旨が本文中に明記されている必要がある。また、主となる研究者が所属する施設などの倫理審査委員会の承認を得る。倫理審査委員会の承認を得て実施した研究は、承認した倫理審査委員会の名称、承認番号、承認年月日を本文中に記載する。

1) http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/26/12/_icsFiles/afieldfile/2014/12/22/1354186_1.pdf

2) Replacement（代替法の利用）、Reduction（動物利用数の削減）、Refinement（苦痛の軽減）

3) <https://www.mhlw.go.jp/general/seido/kousei/i-kenkyu/genome/0504sisin.html>

- 2) 利益相反（Conflict of Interest：COI）

投稿時から遡って過去1年以内での発表内容に関する企業・組織または団体とのCOI状態を謝辞などの後に記載する。COI状態のない場合は、「本研究に開示すべきCOI状態はない。」等と記載する。

- 3) 投稿する論文は学術雑誌に未発表のものに限り、二重投稿は認めない。
- 4) 他の学術誌等に投稿中のものと類似した内容の原稿は受け付けない。また、紀要への掲載可否決定前に他の学術誌へ投稿することを禁止する。
- 5) 投稿論文の研究あるいは執筆において重要な貢献をなしていない者を著者とすることはできない。また、不適切なオーサーシップの疑義があると紀要編集委員会が認めた投稿論文は掲載しない。

5. 投稿手続き

- 1) 投稿希望者は、本学紀要投稿申請書を提出しなければならない。
- 2) 投稿原稿は執筆要領に基づく電子書式で作成、印刷したものとする。
- 3) 論文提出時は、オリジナル原稿、および著者が特定できる部分を削除したオリジナル原稿の複写3部を添えて紀要編集委員長に提出する。
- 4) 査読過程を経たうえで採用が決定した場合、オリジナル原稿1部に電子媒体（フラッシュメモリー、CDのいずれかで保存し、CDの場合、盤面には著者氏名、論文表題を明記）を添えて各学部委員に提出する。

6. 原稿の受付

原稿は随時受け付ける、ただし、投稿規程および執筆要領に沿ったもののみとする。

7. 投稿論文の採否

- 1) 投稿論文の採否は、査読過程を経たうえで、査読者と紀要編集委員長との合議の上決定し、掲載順は紀要編集委員会において決定する。
- 2) 査読は本学紀要投稿論文査読要領によるものとする。
- 3) 査読基準はおおよそ以下の通りである。

	独創性	学術的 価値	技術的 有用性	発展性	信頼性	萌芽性	完成度
総説		※	※	※	※		
原著論文	※	※			※		※
短報	※	※		※		※	
技術・実践報告	※	※		※		※	
資料・その他		※					

8. 校正

採用が決定した論文の校正は2回行うことができる。校正の際、加筆は原則として認めない。

9. 著作権

- 1) 紀要に掲載された論文等の著作権は、執筆者に帰属する。
- 2) 本文の一部や図・表・写真等を他の著作物から転載したり、オリジナルに掲載したりする場合、著作権に関わる問題や法令上の手続きは、投稿者があらかじめ処理するものとする。それらについて問題が生じた場合は、その責は投稿者が負うものとする。
- 3) 当該論文に関して、運用上の問題が生じた場合は、投稿者が対応するものとする。
- 4) 掲載された原稿の著作権は本学に属するものとする。他者の著作権に帰属する資料を引用するときは、投稿者がその許可申請手続きを行う。
- 5) 執筆者は、紀要に掲載された論文等を他に利用する際は、その旨を明記しなければならない。
- 6) 執筆者は、紀要に掲載された論文等が中京学院大学の管理するホームページもしくは国立情報学研究所等の公的機関のホームページにおいて公開されることを許諾するものとする。
- 7) 掲載された論文は電子化され、医学中央雑誌等に公開される。収載する場合は、各学部教授会での決定に従い、個々の許諾は得ない。

10. 執筆要領

執筆要領は別に定める。

11. 別刷り

別刷りは原稿1編につき10部とする。それ以上の部数を必要とする場合は執筆者の費用負担とする。

附則

1. この規程は、令和2年4月1日から施行する。